

早期水稲品種の推進はどいつする

イクヒカリへの転換の推進も必要であると思っている



上原 正一 議員

県内有数の水田地帯で

あり、900ヘクタール余りの水田を持つ本町にとって、水稲は重要な品目である。稲作経営を安定させる施策に早急に取り組むべきだと考える。そこで、早期水稲品集の推進は、どのように考えているのか。

イクヒカリへの転換の推進も必要

町長

平成23年作付けは、コシヒカリ388ヘクタール、イクヒカリ35ヘクタール、ヒノヒカリ（普通期）54ヘクタールが作

付けされたが、温暖化現象でコシヒカリが、環境の変化に合わなくなったと伺っており、今後、イクヒカリへの転換の推進も必要であると思っている。

今後の対応を示せ

上原議員

コシヒカリとイクヒカリでは航空防除や、水路の落水時期が違うため品種を統一しないと品質も悪くなると思われる。また、米販売農家は、品種ごとにコンバイン、乾燥機の掃除もしいないといけないし、作業能率を上げるためにも、今後の対応を示せ。

一等米比率（農協出荷分のみ）

町名	コシヒカリ	イクヒカリ
大崎町	73.01%	28.4%
東串良町	68.2%	47%
吾平町	—	74.3%

地元合意のもと水系ごとに進めたい

農林振興課長

現在、コシヒカリ主体の水管理が行われており、イクヒカリにとって落水時期が早い事が品質低下の原因と考えられている。

今後、水利組合、防除組合、技連会等で十分検討し、地域の合意が得られれば水稲の品種については水系ごとに進めていき

基盤整備マップはできないか

上原議員

町内の水田は、乾田あり、湿田あり、泥炭ありで一口に基盤整備と言っても難しい所もある。色分けしたマップ作製はできないか。

マップ作製は行っていききたい

町長

水田農業は基幹産業の中で、最も重要な部分であり、機械の大型化や生産性の向上を図る上で、農地の集積、農道、排水路の整備は欠かせないものである。整備の必要な地区が、一目でわかるように、航空写真や地図システム等を駆使し、マップ作製を行っていききたい。

小規模整備はできないか

上原議員

県内の水田整備率は、

たい。

78%、本町の整備率30%

では、集落営農や耕作放棄地対策も進めにくい。5ヘクタール、20ヘクタールの大規模整備を進めながら、問題のある地区で、小規模整備は出来ないか。

小規模整備事業はできない

町長

今までに4地区を取り組んできた。計画からすると6年かかるが、高齢者が増える中、今後整備は進めて行く。県に何回も相談したが、小規模整備事業はないとの事だった。

障害のある児童・生徒の受け入れ態勢は

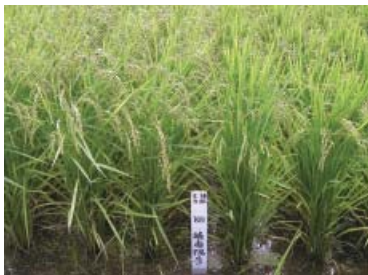
上原議員

福祉に対する考え方、とりわけ障害のある児童・生徒の学校の受入れ態勢はどうなっているか。

個々に配慮した運営に努めている

教育長

就学指導委員会を設置し、障害のある児童・生徒に関し、総合的に多角的判断を行い、適正な就学を図る審議を行なっている。支援を必要とするときは、特別教育支援員を置き個々の状況に配慮した学校運営に努めている。



右イクヒカリ・左コシヒカリ